

でまきむらがないように均一に散布する。また、極端な浅水や深水で使用しない。

3. 散布後3～5日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させず、落水、かけ流しは厳禁である。入水は静かに行う。
4. 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化作業、植付けはていねいに行う。また、極端な浅植え、浮き苗などで根が露出している水田で使用しない。
5. 次の条件下では、初期生育の抑制やクロロシスが生ずる恐れがあるので使用はやめる。特にこれらの条件と梅雨明けの散布時、散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が著しくなる。
 - (1) 砂質土壌の水田及び漏水の大きな(1日の減水深2cm以上)水田。
 - (2) 軟弱な苗を移植した水田。

適用草種と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤のみを使用する場合の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロヘラオモダカ(北海道)	移植後5～15日(ノビエ2葉期)まで	壤土～埴土(減水深2cm/日以下)	3kg	1回	湛水	北海道、東北、北陸
		移植後5～15日(ノビエ2.5葉期)まで				散布	関東以西(九州、南四国などの暖地を除く)の普通期及び早期栽培地帯
		移植後5～15日(ノビエ3葉期)まで					九州、南四国などの暖地の普通期及び早期栽培地帯

ハービエース水溶剤

ピアラホス水溶剤

(取扱メーカー) 明治製菓株式会社
武田薬品工業株式会社

対象作物：ぶどう・りんご・キャベツ・はくさい・トマト・きゅうり・すいか・花木・桑。

成分・作用特性：本剤は、L-2-アミノ-〔(ヒドロキシ)(メチル)ホスフィノイル-L-アラニル-L-アラニン〕のナトリウム塩を有効成分として20.0%含有する青色水溶性細粒及び微粒である。本剤の有効成分は、ストレプトマイセス・ハイグロスコピカスに属する放線菌によって産出される醗酵生産物であり、醗酵生産物による除草剤としては世界で初めて実用化されたものである。醗酵生産物は一種の天然物であり、自然界における物質循環の中で代謝・

分解されて、土壌残留等による環境汚染の心配のない農薬である。

本剤は、非選択性茎葉処理型除草剤であり、植物に散布すると植物体内でグルタミン酸とアミノニアからグルタミンが合成される際に関与

するグルタミン合成酵素の活性を阻害する。こ

新 除 草 ・ 調 節 剤

のため、植物体内にアンモニアが異常蓄積し、この害作用により枯死に至る。本剤は、散布3～5日後に雑草の茎葉部が変色しはじめ、完成は雑草の種類、生育条件等によっても異なるが、通常7～14日を要する。

毒性：人畜毒性は普通物、魚毒性はB類である。本剤の急性毒性（LD₅₀値）はラットの経口で雄：5,400mg/kg、雌：5,200mg/kgであり、ラットの経皮で雌雄ともに2,000mg/kg以上である。

使用方法：今回登録となった適用作物、使用基準は表に掲げる通りである。なお、本剤は現在適用作物、適用雑草拡大のため、各種の試験を実施中である。

減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。②雑草の生育期に有効であるが雑草が大きくなると効果が劣るので時期を失しないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布する。③周辺の植物に薬液が付着すると薬害を生ずるので散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないように散布する。④散布液を調製した容器及び散布器具は使用后十分に洗っておく。

安全使用上の注意：①誤飲、誤食などのないように注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせる。②眼及び皮膚に対して刺激性があるの

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤及びビ アラホスを含 む農薬の 総使用回数	使用 方法
			薬量	散布水量		
ぶどう	畑地 一年生 雑草	雑草生育期（草丈30 cm以下）収穫30日 前まで	500 ～ 750 g	100 ～ 150 l	3回以内	雑草 茎葉 散布
りんご		雑草生育期（草丈30 cm以下）収穫21日 前まで			2回以内	
キャベツ はくさい		定植前雑草生育期 （草丈20cm以下）	300 ～ 500 g	1回		
トマト		雑草生育期定植前又 は定植後畦間処理		4回以内		
きゅうり				3回以内		
すいか		定植後畦間処理収穫 60日前まで		1回		
花 木		雑草生育期（草丈20 cm以下）	500 ～ 750 g	—		
桑		春期萌芽前及び夏切 後（雑草生育期）				

で注意する。③散布の際は防護マスク・手袋・不浸透性防除衣など着用する。また、散布液を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいするとともに衣服を交換する。④かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。⑤動物実験では中毒時の痙攣等の抑制にフェノバルビタールナトリウム製剤の投与が有効であると報告されている。なお、本剤を貯蔵する場合は、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保

使用上の注意：①散布直後の降雨は、効果を 管する。